

普及センターだより

No.124

MISATO

発行 宮城県美里農業改良普及センター

〒987-0005 遠田郡美里町北浦字笹館5

TEL (0229) 32-3115 E-mail msnokai@pref.miyagi.lg.jp

FAX (0229) 32-2225 URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



青ねぎの定植 (涌谷町)



ばれいしょの定植 (美里町)

普及の窓 「変わるものと変わらないもの」

美里農業改良普及センター
所長 大友 愼次

需要に応じた多彩な米づくり、園芸振興や畜産振興など、それぞれが大事な取り組みです。

ニーズが変化し、技術の革新がスピードを上げて進む中、時代の変化に対応して新たな技術や作目を取り入れたり、販路拡大を目指すなど、試行錯誤しながら経営の維持・発展に向けてチャレンジしていくことが必要になっています。

一方では、いつの時代でも「人」とのコミュニケーションは大切なものだと思っています。スピードや効率性が重視される世の中ですが、顔を合わせて話をし、たとえ少しでしかないとしても、お互いの考えを理解し合うことが人材の力を発揮させ、経営や地域の発展に取り組むエネルギーを大きくさせるものと考えております。

普及センターといたしましては、皆様の話をよく聞き、話し合い、取り組むべき方向を明確にしながら、地域と経営の発展に向けて、皆様とひとつひとつに取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

＊ ＊美里農業改良普及センターでは4つのプロジェクト課題に取り組みます。＊ ＊

令和元年度プロジェクト課題紹介

地域農業の維持・発展に向けて法人化した集落営農組織の経営安定化

(農)タカギ農産(美里町)は、集落営農組織を母体として平成29年9月1日に設立された農事組合法人です。農地中間管理事業の活用によって農地集積を図っており、現在の経営面積は約23haで経営内容は、主食用水稲8ha、大豆14ha、にんじん1ha等です。土地利用型法人としては経営面積が小さいことから、収益性の高い転作作物を主体とした経営を行っており、法人経営となつてからは土地利用型の転作作物として新たに、にんじんの作付を開始しています。法人設立時に策定した事業計画(5か年計画)を達成することを目標に法人経営を展開していることから、大豆とにんじんの作業競合を回避した新たな転作体系を確立することで収益性の向上を図ることが課題です。そこで、高収益作物の生産・販路拡大等を通じた「法人経営の安定化」に向けた支援について重点的に取り組んでいきます。



【(農)タカギ農産】

法人経営体における第三者認証GAPの導入・定着

近年、安全・安心な農作物への関心が高まる中、それぞれの生産工程を「みえる化」して第三者機関に審査してもらい「GAP(Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理)認証」取得が進められています。管内では、(有)氏家農場がみずなどねぎでASIAGAPVer.1を、(有)マルセンファームがほうれんそうとトマトで、(有)グリーンウェーブ南郷がみずなどJGAPを取得しています。また、(株)こうだいらプランテでは新規にGAP認証を目指しています。

そこで、普及センターでは新規に取得を目指す経営体には施設管理や書類作成などを中心とした支援を、取得後の経営体には適切な運用管理やランクアップに向けた継続支援を行うことでGAPの取得拡大と定着を進めていきます。



【(有)グリーンウェーブ南郷】

「金のいぶき」の導入・定着化による地域ブランド米の確立

水稲生産においては、米価の低迷と担い手農家の高齢化による作付面積の減少が進んでいます。その中で、涌谷町は玄米食向け新品種「金のいぶき」による地域ブランド構築による産業振興を図っています。

平成29年度より「金のいぶき」の生産を本格化し、町独自の農産物のブランド戦略の構築や、生産体制の確立及び販売促進など関係機関と連携を強化しており、地域ブランド米としての定着が期待されます。

普及センターでは「金のいぶき」がブランド米として認知度を高めるための支援及び、「金のいぶき」栽培者が安定した収量及び品質を確保するための技術定着に向けた支援を行っていきます。



【刈取り指導会】

青ねぎの栽培技術定着による生産性の向上

管内では、加工・業務用野菜として「青ねぎ」の作付が推進されています。平成29年には補助事業により青ねぎ集出荷施設を整備し、大規模に青ねぎの栽培に取り組む法人も出てきました。

普及センターでは、みどりの農業協同組合と連携し、青ねぎ栽培技術の向上を図るため、定期的な病害虫発生状況調査や土壌分析による施肥量の検討、現地検討会等を実施してきました。

今年度は、生育の促進とバラツキを小さくするため、種子給水処理技術等の実証により、施設栽培での青ねぎの周年栽培技術の確立に取り組めます。また、病害虫発生状況調査を継続するとともに、マルチ資材の比較検討や効果的な薬剤散布ノズルによる防除実証等により露地青ねぎの重点病害虫防除の支援を行っていきます。



【現地検討会】

宮城県のいちご新品種「にこにこベリー」

新品種「にこにこベリー」は本県育成品種「もういっこ」と栃木県育成品種「とちおとめ」を交配させて選抜したいちごの新品種です。本県では、「もういっこ」と「とちおとめ」の2品種がいちごの主力品種として作付けされています。

「とちおとめ」は、年内収量が多く食味が優れる品種ですが、本県では「もういっこ」に比べてやや収量が少なく、「もういっこ」は全体の収量が多く硬い果実が特徴ですが、年内収量が「とちおとめ」と比べて少ないという傾向があります。そこで、年内から安定した収量が得られ、収量が多い品種育成を目標としてできたのが、この「にこにこベリー」です。

この名前には「作り手、売り手、さらには手に取って食する全ての人が笑顔になるいちご」という想いが込められています。果実の色は鮮やかな赤色で、形は円錐形でそろいが良く、果実の空洞はほとんどありません。糖度は「もういっこ」と同程度で酸味があり、さわやかな甘さが特徴です。

是非皆さん機会がありましたらご賞味ください。



農業士の紹介



青年農業士
手嶋 真也さん

シクラメンを大規模で経営しており、他にもラベンダーの鉢物等、季節毎に鉢花を栽培しています。また、水稲部門の全てを経営されています。

研修生の受け入れや小学生等の「花育」等、担い手育成にも積極的に取り組んでいます。



青年農業士
遠藤 靖之さん

就農後、酪農部門を担当し父親の経営と分離して営農を開始し、家族営協定締結後は水稲部門、転作部門等、事業の全てを担っています。

高齢化等で担い手不足により、水稲等の受託面積が増加しており、地域の農業の受け皿として活躍しています。



青年農業士
菅原 啓緒さん

農業大学卒業後、海外研修（米国）等、先進地において技術を習得し、就農後、経営移譲され酪農、繁殖、飼料栽培等全部門の経営を担っています。農業大学校生の研修受け入れ等担い手育成にも積極的に取り組んでいます。